おきぎん経済研究所
NEWS RELEASE

“地域のことは地域で考えよう”

2020年2月28日

おきぎん県内景況・速報
2020年1月

―県内景況は拡大の動きに弱さが見られる―
（下方修正）

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を上回り、**新車販売台数**は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コンは前年同月を上回り、**セメント**は下回る。
新設住宅着工戸数は前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、**観光施設入場者数**は下回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。
ホテル客室単価は前年同月を上回り、**宿泊収入(推計値)**は下回る。

■企業倒産

件数、負債総額ともに前年同月を下回る。

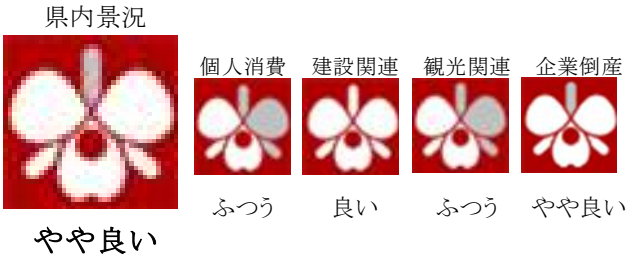
現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所
TEL:098-869-8711　FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報（2020 年 1 月分）

◎2020年1月　おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は拡大の動きに弱さが見られる

1 月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

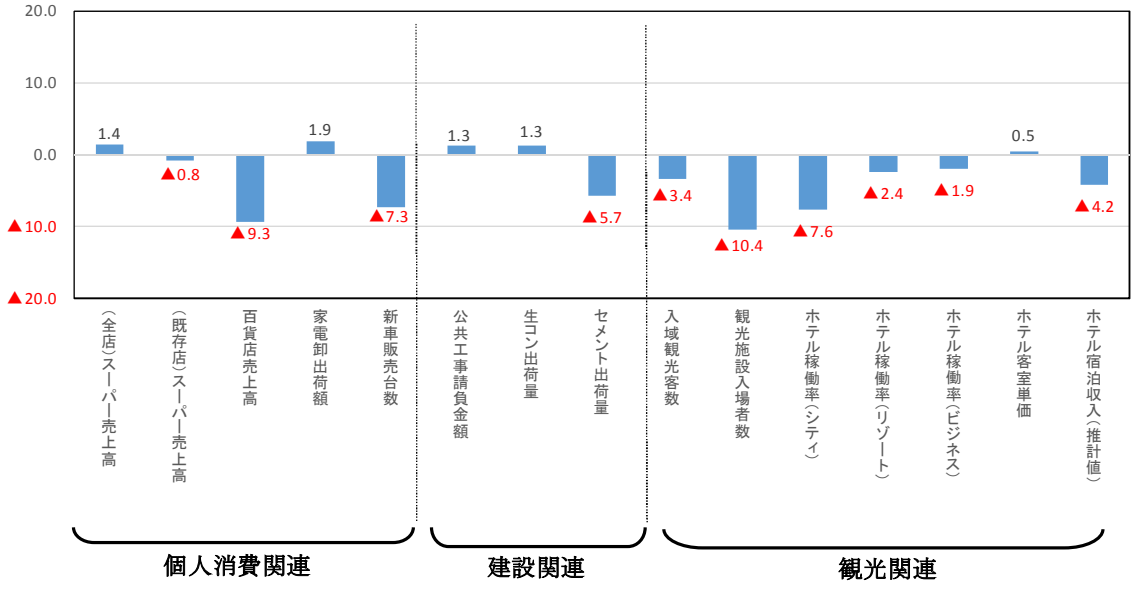
建設関連では、公共工事請負金額は 4 ヵ月連続で前年同月を上回りました。建設資材である生コンは前年同月を上回り、セメントは下回りました。

観光関連では、入域観光客数は 5 ヵ月ぶりに前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入（推計値）は下回りました。

このような状況に鑑みて、建設関連が概ね堅調な中、個人消費、観光関連では拡大の動きに弱さが見られることなどから「**県内景況は拡大の動きに弱さが見られる**」と景気判断しました。　（**下方修正**）

主要景気指標前年同月比

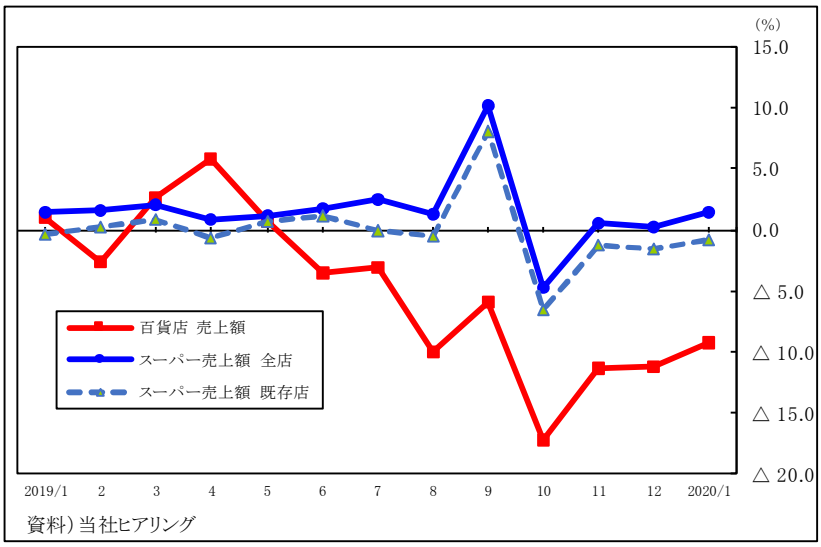
（単位：%、ポイント）



■個人消費：　（ふつう）

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	r 2.0	r 0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8
5	1.2	0.7	0.7
6	1.7	1.2	△ 3.6
7	2.5	r △ 0.02	△ 3.1
8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2
11	0.5	△ 1.2	△ 11.3
12	0.3	△ 1.5	△ 11.2
2020/1	1.4	△ 0.8	△ 9.3



資料）当社ヒアリング

注）前年同月比

1月の個人消費関連では、**スーパー売上高「全店ベース（前年同月比1.4%増）」**は、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。「衣料品（同　3.8%減）」は気温が高く推移したことや、消費税増税の影響などにより前年同月を下回りました。一方、「食料品(同　1.6%増)」、「家庭用品（同　2.5%増）」は、新規出店効果などにより、前年同月を上回りました。

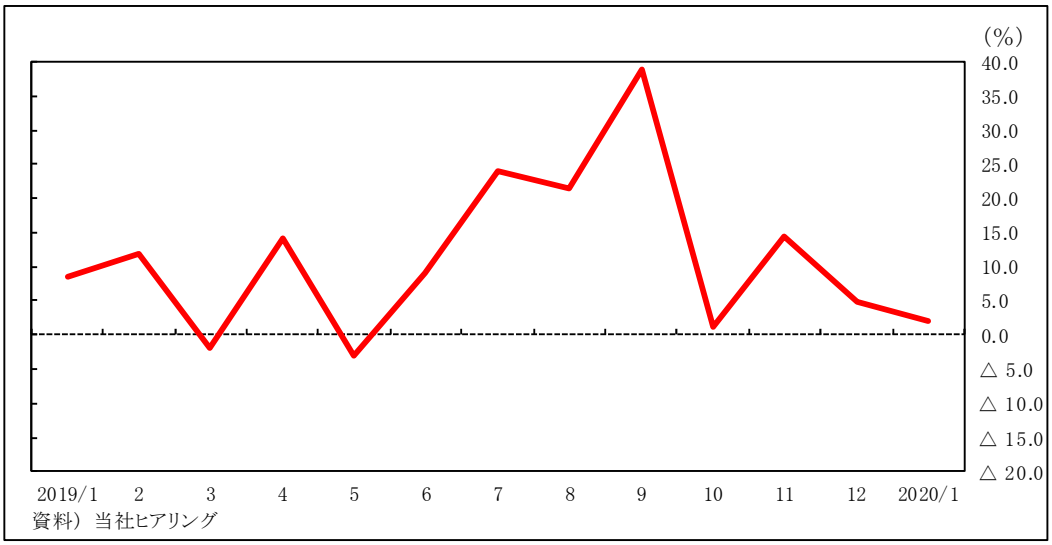
「既存店ベース（同　0.8%減）」は、4　ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同1.1%増)」は、旧正月が1月（前年は2月）となったことなどから、惣菜や精肉、鮮魚を中心に全般的に売り上げが伸び、前年同月を上回りました。一方、「衣料品（同 11.0%減）」は、気温が高く推移した影響や、消費税増税の影響などにより、冬物商材を中心に売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。「家庭用品（同 4.9%減）」は、新設店舗の影響や、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などにより、家電等の売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、インバウンド需要の減少や、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、全般的に売り上げが伸びず、8　ヵ月連続で前年同月を下回りました（同　9.3%減）。内訳をみると、「食料品（同6.0%減）」は、昨年開催した催事企画が2月に後ずれしたことなどにより、前年同月を下回りました。ウェイトの高い「衣料品(同　9.0%減)」は、販促企画を行うも、暖冬や消費税増税の駆け込み需要の反動の影響などにより、「紳士服（同6.6%減）」、「婦人服（同7.1%減）」で冬物商材等の売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。靴、バッグ等の「身のまわり品（同　10.0%減）」も、消費税増税の駆け込み需要の反動により、前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨（同 10.7%減）」は、インバウンド需要の減少により、前年同月を下回りました。

② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は 8 ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:%

	沖縄県
2019/1	8.5
2	11.8
3	△ 2.0
4	14.1
5	△ 2.9
6	9.1
7	23.9
8	21.5
9	38.8
10	1.1
11	14.3
12	4.8
2020/1	1.9



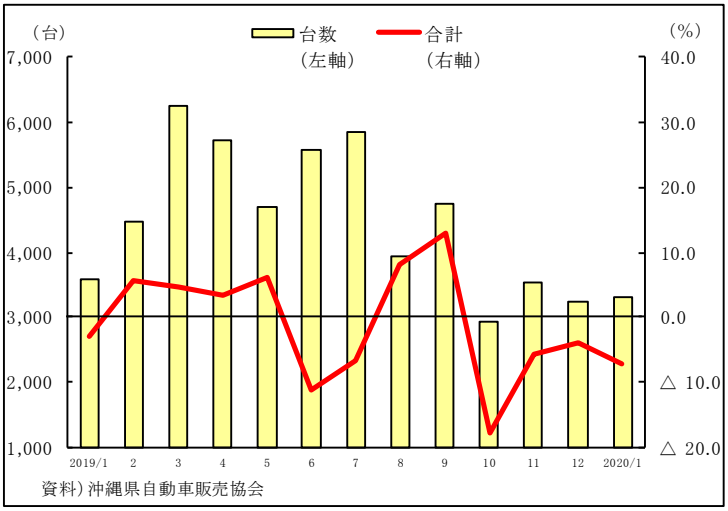
注)前年同月比

家電卸出荷額は、業務用家電などの売り上げが伸び、8 ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 1.9%増)。品目別では、「テレビ(同 3.3%減)」「冷蔵庫(同 18.5%減)」、「洗濯機(同 0.2%減)」、「エアコン(同 3.1%減)」は、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、前年同月を下回りました。一方で、「その他家電(同 8.5%増)」は、業務用家電などの需要が増加し、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、4 ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:台、%

	台数(左軸)	合計(右軸)	普通乗用車	小型乗用車	軽乗用車
2019/1	3,575	△ 2.9	△ 18.5	△ 3.8	4.5
2	4,457	5.6	△ 2.7	19.3	0.1
3	6,252	4.6	△ 12.1	28.9	△ 5.0
4	r 5,722	r 3.4	△ 8.5	9.4	1.6
5	4,694	6.0	1.1	10.4	7.9
6	5,579	△ 11.3	1.6	△ 28.3	△ 4.8
7	5,840	△ 6.6	1.1	△ 25.0	6.1
8	3,935	8.2	△ 16.9	10.3	11.8
9	4,744	12.8	35.5	11.8	2.2
10	2,943	△ 17.7	△ 23.9	△ 28.1	△ 7.0
11	3,526	△ 5.6	△ 8.5	2.2	△ 1.4
12	3,233	△ 4.0	10.1	14.5	△ 11.3
2020/1	3,314	△ 7.3	1.1	△ 2.9	△ 17.9



注)前年同月比
注)普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で 3,314 台(同 7.3%減)となり、4 ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 1.1%増)」は、レンタカー需要が増加し、2 ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、「小型乗用車(同 2.9%減)」、「軽乗用車(同 17.9%減)」は、レンタカー需要は増加したものの、消費税増税の影響により自家用車需要が伸びず、小型乗用車は 3 ヵ月ぶりに、軽乗用車は 4 ヵ月連続で前年同月を下回りました。

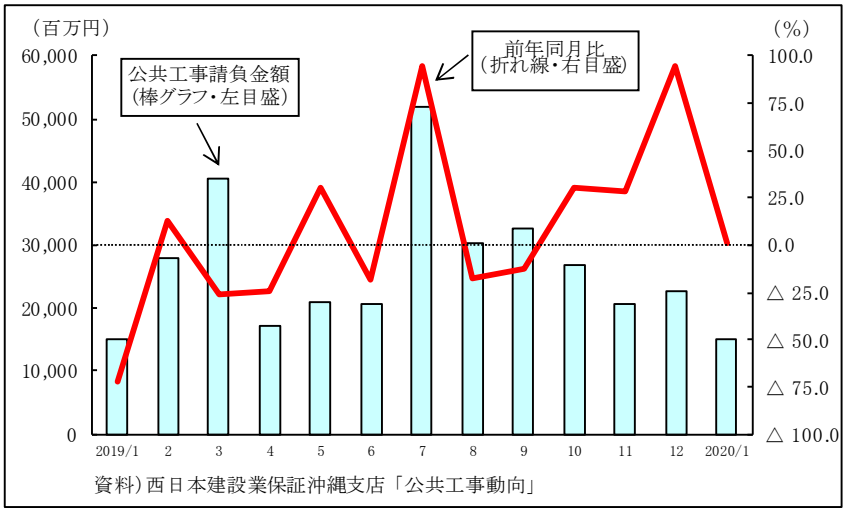
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

■ 建設関連： （良い）

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2019/1	14,944	△72.6
2	27,833	12.8
3	40,417	△25.9
4	17,044	△24.3
5	21,038	30.4
6	20,741	△18.1
7	51,900	94.2
8	30,231	△17.8
9	32,533	△12.5
10	26,687	29.8
11	20,544	28.2
12	22,615	94.7
2020/1	15,144	1.3

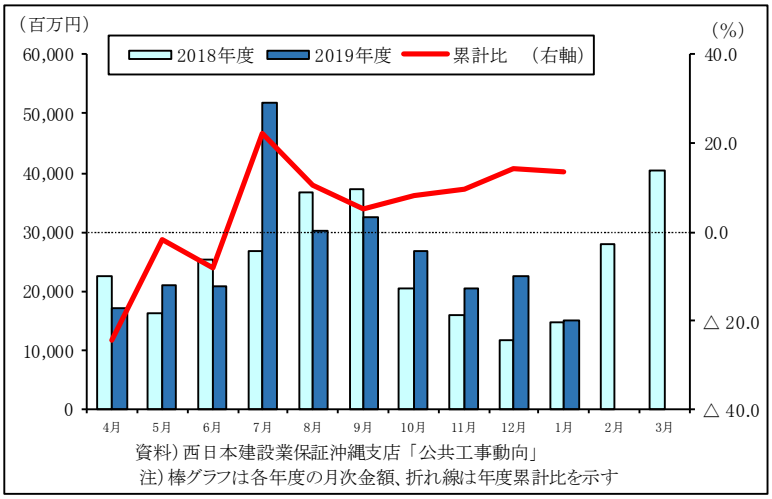


資料）西日本建設業保証沖縄支店「公共工事動向」

【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

	2018年度	2019年度	累計比（右軸）
4月	22,513	17,044	△24.3
5月	16,134	21,038	△1.5
6月	25,324	20,741	△8.0
7月	26,729	51,900	22.1
8月	36,794	30,231	10.6
9月	37,192	32,533	5.3
10月	20,558	26,687	8.1
11月	16,031	20,544	9.7
12月	11,613	22,615	14.3
1月	14,944	15,144	13.5
2月	27,833		
3月	40,417		



資料）西日本建設業保証沖縄支店「公共工事動向」
注）棒グラフは各年度の月次金額、折れ線は年度累計比を示す

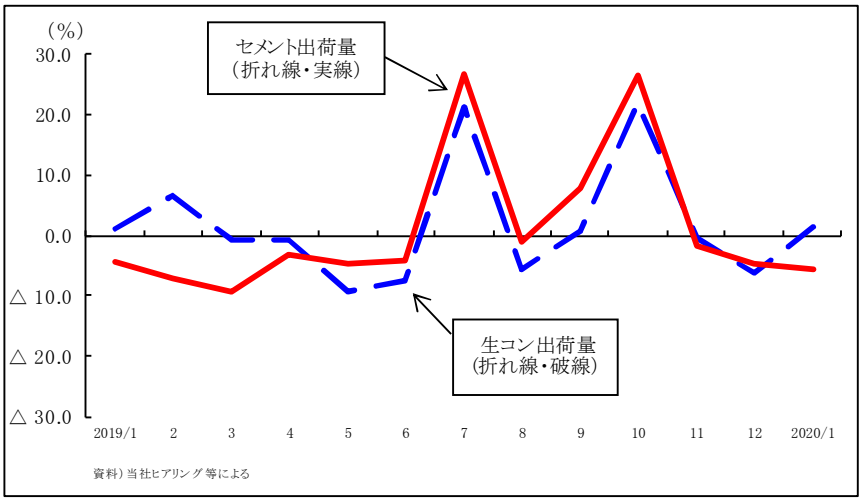
1 月の**公共工事請負金額**は、前年同月比 1.3%増の 151 億 4,400 万円となりました(4 ヵ月連続増)。今年度累計値では、13.5%増となっています。

発注者別でみると、「独立行政法人等(同 332.4%増)」や「沖縄県(同 165.7%増)」、「市町村(同 23.3%増)」は前年同月を上回りました。一方で「国(同 28.6%減)」や「その他の公共的団体(同 73.7%減)」は下回りました。

②建設資材・・・生コンは前年同月を上回り、セメントは下回る。

単位:前年同月比(%)

	生コン	セメント
2019/1	1.1	△ 4.5
2	6.6	△ 7.1
3	△ 0.8	△ 9.3
4	△ 0.7	△ 3.3
5	△ 9.2	△ 4.7
6	△ 7.6	△ 4.1
7	21.2	26.7
8	△ 5.5	△ 1.2
9	0.7	7.9
10	21.9	26.5
11	△ 0.6	△ 1.7
12	△ 6.1	△ 4.8
2020/1	1.3	△ 5.7



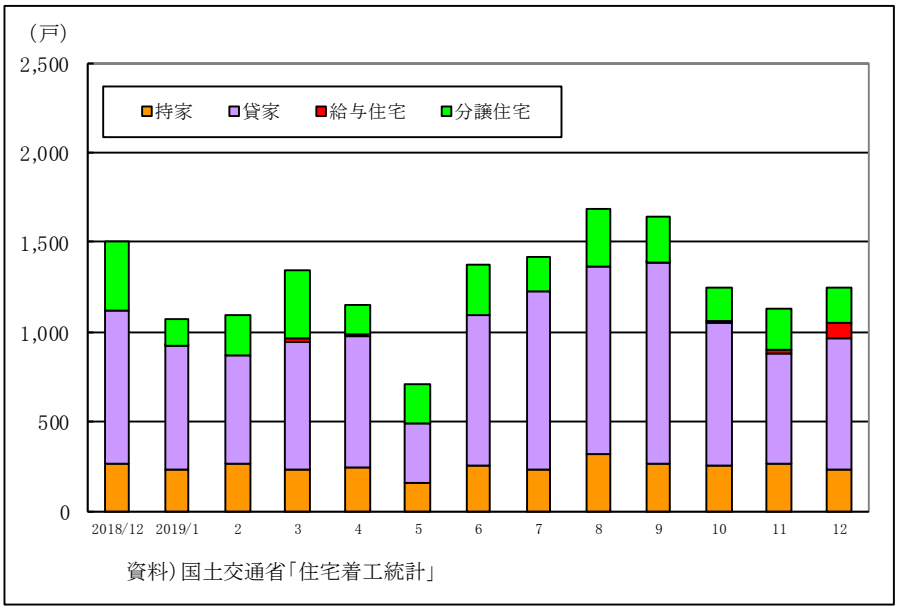
(注1)セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は1.3%増と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷は、中南部地区の空港関連や学校関連出荷などが減少し前年同月より 3.3%下回り、民間工事向けは、中南部地区で宿泊施設等工事の出荷増などで前年同月より 3.6%上回りました。セメント出荷量は 5.7%減と 3 ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③【参考】住宅投資(12 月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

単位:戸、%

	着工戸数	前年同月比
2018/12	1,507	8.3
2019/1	1,070	△14.2
2	1,093	△32.1
3	1,340	6.9
4	1,153	△1.5
5	707	△38.4
6	1,374	△20.6
7	1,419	△16.0
8	1,683	25.5
9	1,640	10.7
10	1,245	△16.2
11	1,130	△0.8
12	1,244	△17.5

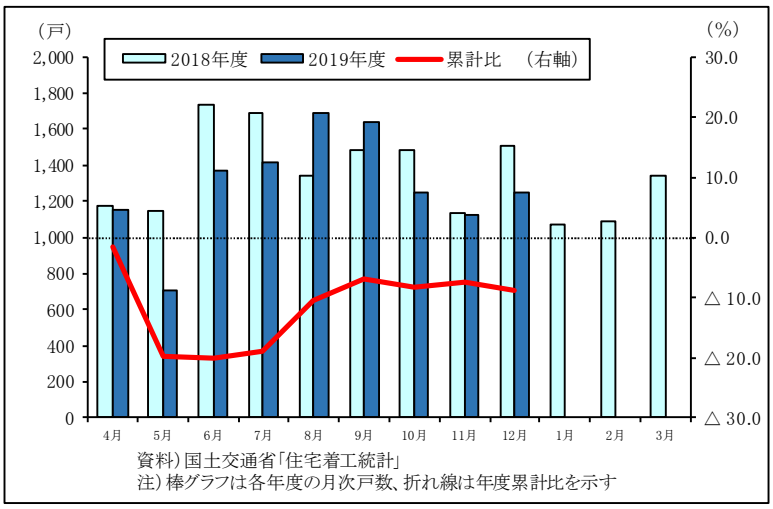


新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比 17.5%減の 1,244 戸となり、3 ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同 13.4%減)」のほか、「持家(同 11.5%減)」、「分譲住宅(同 52.0%減)」が前年同月を下回りました。

住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

単位:戸、%

	2018年度	2019年度	累計比(右軸)
4月	1,171	1,153	△1.5
5月	1,148	707	△19.8
6月	1,730	1,374	△20.1
7月	1,690	1,419	△18.9
8月	1,341	1,683	△10.5
9月	1,482	1,640	△6.8
10月	1,486	1,245	△8.2
11月	1,139	1,130	△7.5
12月	1,507	1,244	△8.7
1月	1,070		
2月	1,093		
3月	1,340		



資料）国土交通省「住宅着工統計」
注）棒グラフは各年度の月次戸数、折れ線は年度累計比を示す

今年度累計値では、8.7%減となっています。

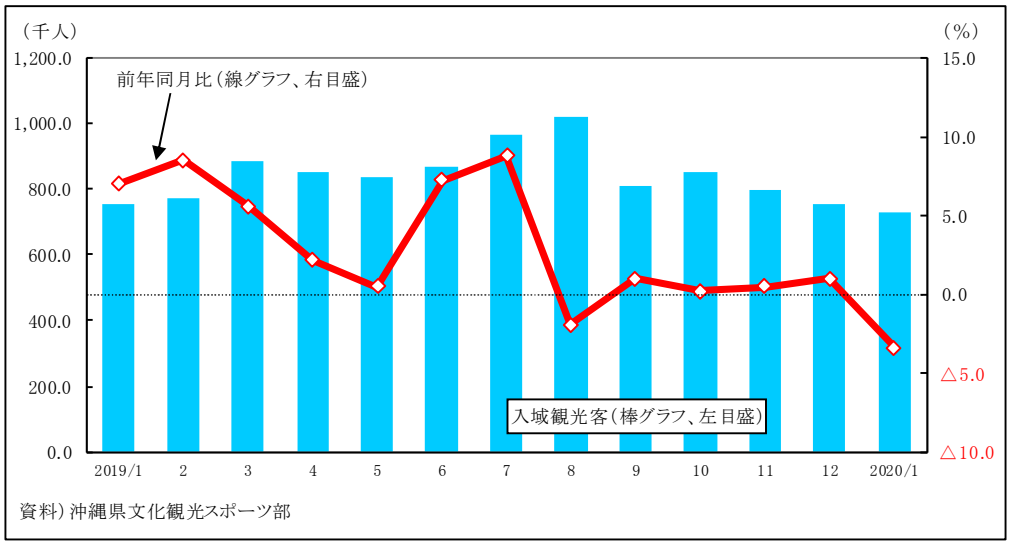
■観光関連：　（ふつう）

①入域観光客数（国内客・外国客の合計）・・・5ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2019/1	753.5	7.0
2	772.2	8.5
3	884.0	5.6
4	851.4	2.2
5	834.9	0.5
6	868.2	7.2
7	963.6	8.8
8	1,021.2	△ 1.9
9	809.3	1.0
10	851.3	0.2
11	799.2	0.5
12	755.1	1.0
2020/1	727.8	△ 3.4

※外国客は乗務員等を含む

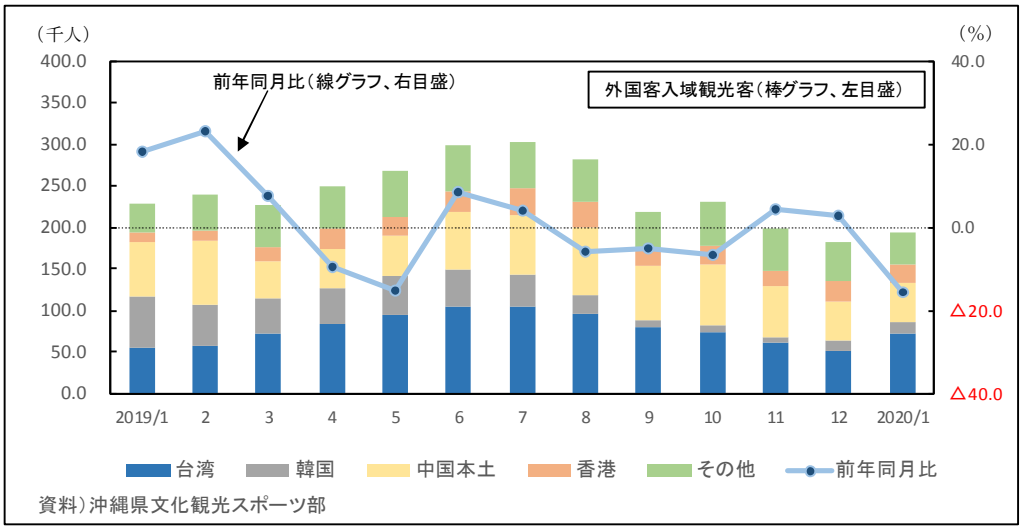


外国客 入域観光客数・・・3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2019/1	229.8	18.2
2	240.1	23.3
3	226.6	7.8
4	250.3	△ 9.6
5	268.4	△ 15.1
6	298.4	8.5
7	302.8	4.1
8	282.9	△ 5.7
9	218.7	△ 5.1
10	230.5	△ 6.5
11	199.1	4.2
12	182.4	2.9
2020/1	193.5	△ 15.8

※外国客は乗務員等を含む



1月の<u>入域観光客数</u>は、25,700人少ない727,800人（前年同月比3.4%減）となり、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客（同2.0%増）」は534,300人と、年末年始の旅行需要の高まりがあったことや、航空会社の提供座席数が増加したこと等から、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客（同15.8%減）」は、193,500人と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便に加え、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、中国市場における団体旅行の販売が禁止されたこと等から、前年同月を下回りました。

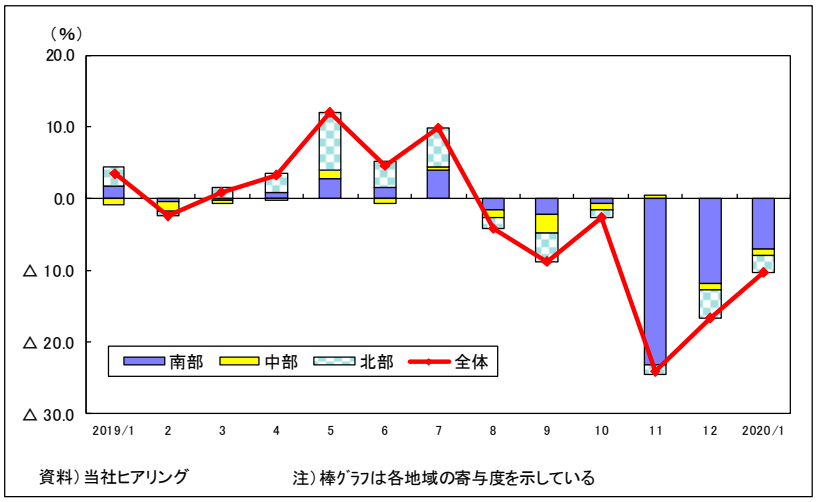
「台湾（同29.5%増）」「韓国（同76.4%減）」「中国本土（同29.1%減）」「香港（同109.3%増）」

※乗務員等を除く2020年1月実績＝全体703,500人（**<u>同3.1%減</u>**）、外国客169,200人（**<u>同16.4%減</u>**）、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・6ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2019/1	3.5	4.2	r △ 6.4	5.8
2	△ 2.5	△ 1.4	△ 11.5	△1.2
3	0.9	△ 0.4	△ 4.7	3.4
4	3.2	1.9	△ 2.2	5.7
5	12.0	6.4	11.1	17.6
6	4.6	3.5	△ 6.7	7.8
7	9.8	10.8	2.8	10.3
8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△7.1
10	△ 2.7	△ 1.5	△ 9.4	△2.4
11	△ 24.2	△ 51.7	3.8	△3.3
12	r△ 16.7	r△ 27.7	r △ 6.8	△8.8
2020/1	△ 10.4	△ 17.0	△ 6.7	△5.3



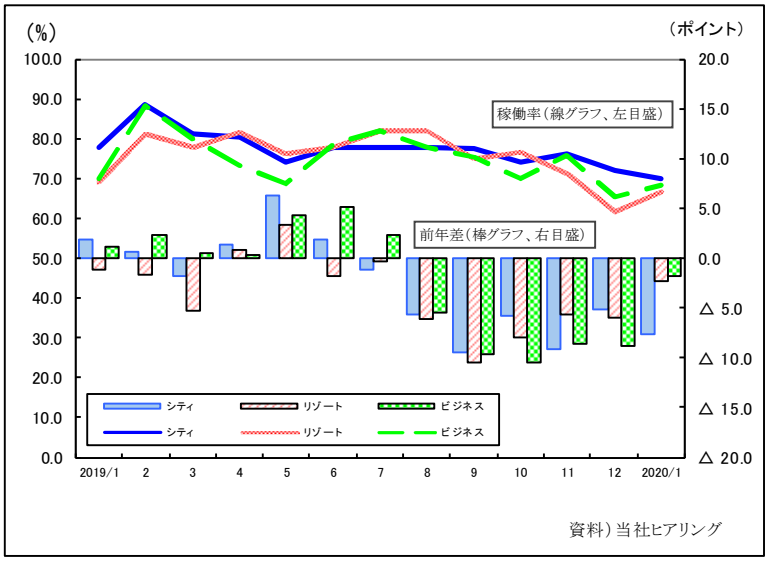
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設
※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。
※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。
※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より10.4%減少(6ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同17.0%減と6ヵ月連続、中部は同6.7%減と2ヵ月連続、北部は同5.3%減と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位:%、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2019/1	r 77.7	r 69.2	70.0	r 1.9	r△ 1.2	1.1
2	88.4	81.2	88.0	0.7	△ 1.6	2.3
3	81.0	77.8	79.9	△ 1.8	△ 5.3	0.5
4	80.2	81.4	73.4	1.3	0.8	0.4
5	74.2	76.2	68.8	6.3	3.3	4.3
6	77.8	77.7	78.6	1.9	△ 1.8	5.1
7	77.8	81.9	81.8	△ 1.2	△ 0.4	2.3
8	77.8	81.9	77.6	△ 5.6	△ 6.1	△ 5.4
9	77.5	75.0	75.3	△ 9.4	△ 10.4	△ 9.6
10	74.1	76.4	70.0	△ 5.8	△ 8.0	△ 10.5
11	76.3	71.2	75.6	△ 9.1	△ 5.6	△ 8.7
12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8
2020/1	70.1	66.8	68.1	△ 7.6	△ 2.4	△ 1.9



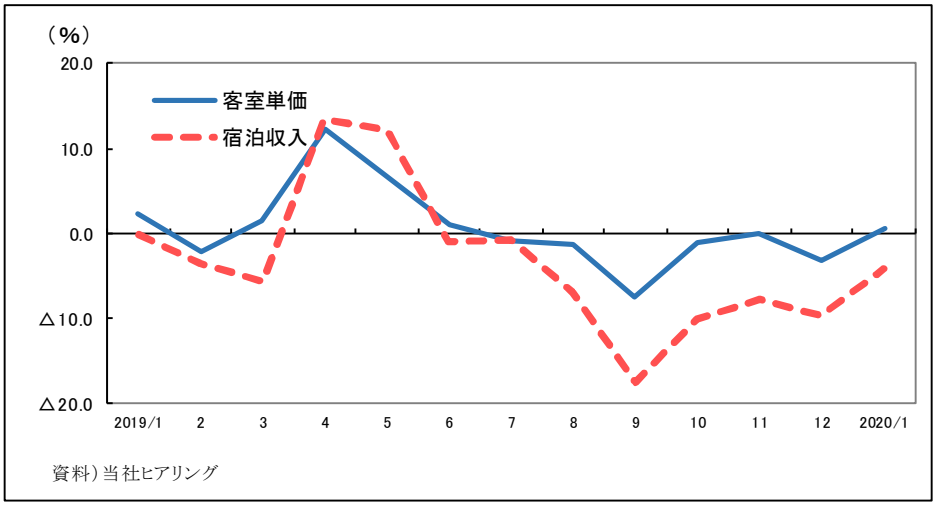
注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
注)2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数が変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。
※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが70.1%と7.6ポイント減少(7ヵ月連続)、リゾートホテルが66.8%と2.4ポイント減少(8ヵ月連続)、ビジネスホテルが68.1%と1.9ポイント減少(6ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。

単位:%

	客室単価	宿泊収入
2019/1	r 2.2	r △0.1
2	△2.2	△3.6
3	1.5	△5.6
4	12.3	13.4
5	6.7	12.2
6	1.1	△1.0
7	△0.9	△0.8
8	△1.4	△7.0
9	△7.4	△17.5
10	△1.2	△10.2
11	△0.1	△7.8
12	r △3.3	r △9.7
2020/1	0.5	△4.2



資料)当社ヒアリング

※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。

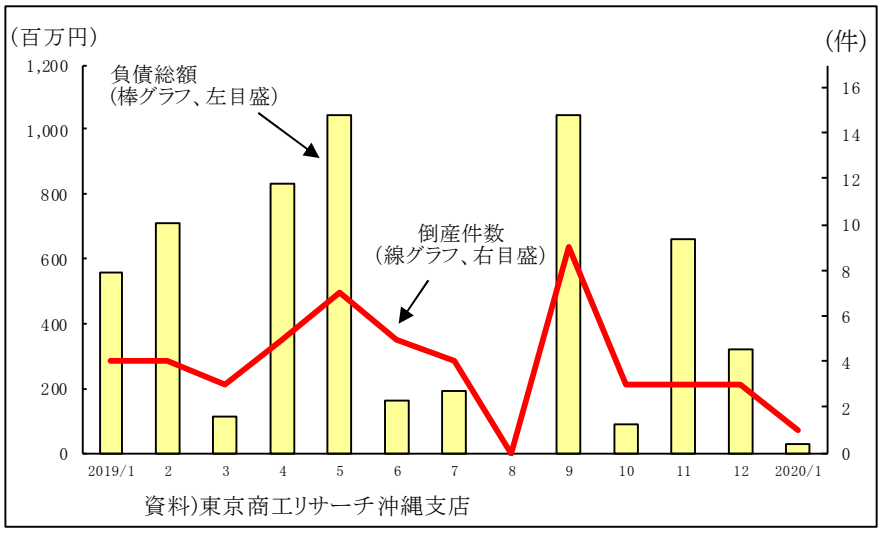
ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.5%増と前年同月を上回りました。宿泊収入は同4.2%減と前年同月を下回りました。

■企業倒産：（やや良い）

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2019/1	560	4
2	708	4
3	110	3
4	832	5
5	1,042	7
6	163	5
7	190	4
8	0	0
9	1,045	9
10	86	3
11	660	3
12	318	3
2020/1	30	1



1月の<u>企業倒産件数</u>は、1件(うち大口倒産はなし)となり、前年同月より75.0%下回りました。<u>負債総額</u>は3,000万円となり、前年同月より94.6%下回りました。

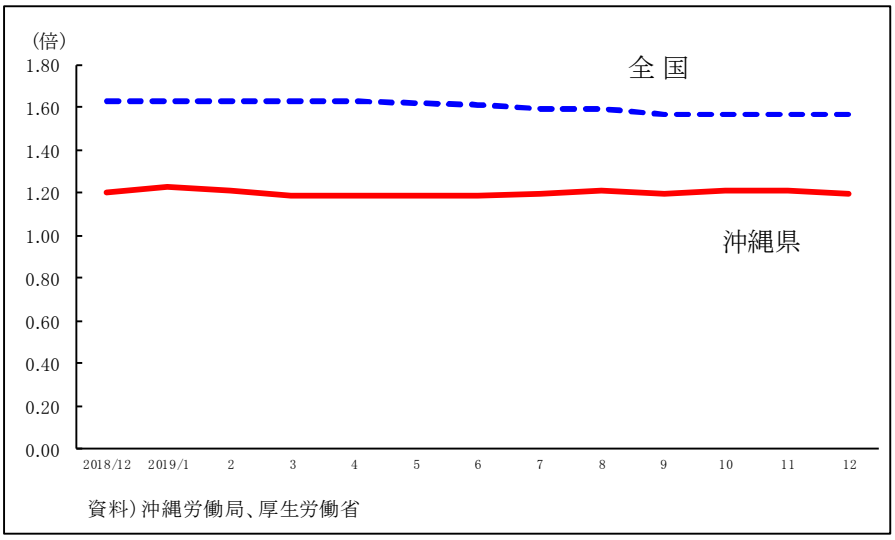
雇用関連：（良い）

【参考】有効求人倍率（12月）・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

単位:倍

	沖縄県	全 国
2018/12	1.20	1.63
2019/1	1.23	1.63
2	1.21	1.63
3	1.18	1.63
4	1.18	1.63
5	1.18	1.62
6	1.18	1.61
7	1.19	1.59
8	1.21	1.59
9	1.19	1.57
10	1.21	1.57
11	1.21	1.57
12	1.19	1.57

注)季節調整済



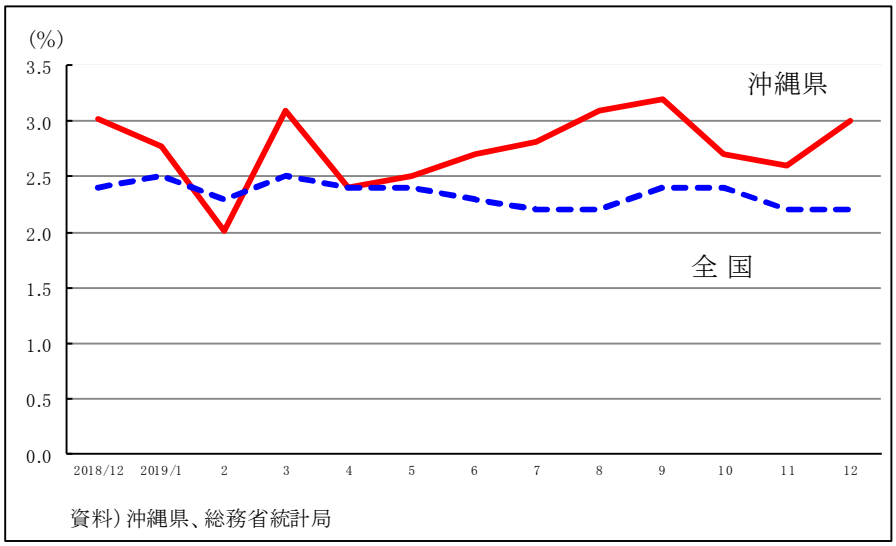
12月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.9%減の30,742人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.2%増の25,869人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.19倍となり前月より0.02ポイント低下しました。

【参考】完全失業率（12 月）・・・沖縄前月より上昇、全国は同水準。

単位:%

	沖縄県	全　国
2018/12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5
4	2.4	2.4
5	2.5	2.4
6	2.7	2.3
7	2.8	2.2
8	3.1	2.2
9	3.2	2.4
10	2.7	2.4
11	2.6	2.2
12	3.0	2.2

注）季節調整済



資料）沖縄県、総務省統計局

12 月の<u>完全失業率(季節調整値)</u>は、3.0%となり前月より 0.4 ポイント上昇しました。